

# 麻酔科管理症例の嘔気・嘔吐の管理

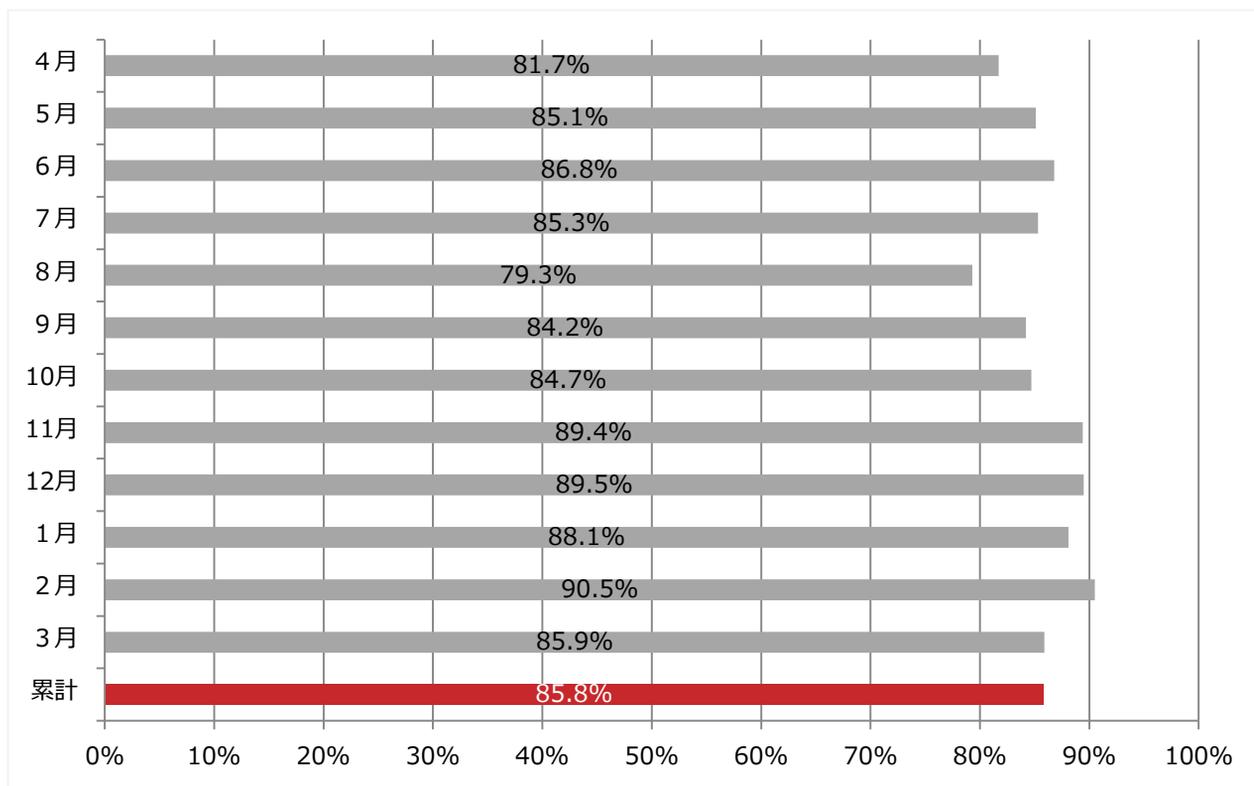
## 85.8 %

(平成31年4月～令和2年3月)

### 指標の説明

周術期管理において、術後の嘔気・嘔吐は合併症として発症した場合、患者に大きな苦痛を感じさせる負の要因となります。使用する麻酔薬の選択や術中・術後の制吐薬の使用などによって、当院では可能な限り嘔気・嘔吐の予防となるような麻酔管理を行っております。

(対象症例数：1,037例)



### 値の算出方法

(術後診察テンプレート 嘔気・嘔吐なしの件数) / (麻酔科管理手術症例数) × 100 (%)

### 考察

近年、全身麻酔薬の改良により周術期の嘔気・嘔吐は以前と比べると比較的軽減していると考えられます。ただし、術後鎮痛薬の副作用として嘔気・嘔吐はある程度の発生頻度が避けられず、今後はその対策が必要と考えられます。